

ポルトガルの旅（家族で行く初めての海外旅行） 2018.8

はじめに

この度 8/13～8/20、ポルトガルのリスボン、エヴォラへ家族で旅行してまいりました。これまで家族では一度も海外旅行に出かけた事がなく、今この機会をなくしては、永遠に家族で海外旅行する機会を失ってしまうと思い、国内旅行でさえも一度も企画した事のない私ですが、人から無謀と言われながらも思い切って実行してみました。

会社が全て準備してくれる海外出張とは違い、何から何まで不安の連続でした。

ポルトガルを選んだ理由は、まず料理がおいしい事、知人含め誰も行った事がなく、全く想像もつかない魅力がある事、またテージョ川を遠くに望む、赤い屋根の家々が壮大に広がる写真が頭に焼き付いて、「よし、ポルトガルに行ってみよう！！」と決めました。

セニョーラ・ド・モンテ展望台からの壮大な眺め

リスボンに到着後、まず地下鉄、バス、市電、ケーブルカー等が共通に使えるヴィヴァ・ヴィアジェンというカードを購入しました。リスボンはいくつかの交通機関が非常に発達しており、どこにでもこのカード1枚で気軽に行けて大変便利でした。

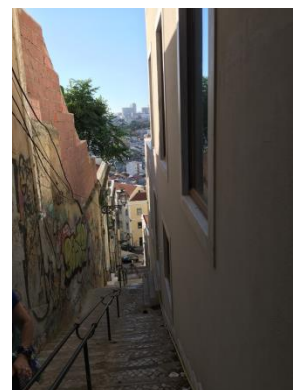
ただ券売機での購入は、何故かなかなかうまくいかず苦勞していたところ、娘が操作すると1発で購入できたところを見ると、ただ単に自分のIT化の遅れだけの問題かもしれません。（でもやっぱり周りのヨーロッパ人をみても年配の方は皆、苦勞していましたよ）

ヴィヴァ・ヴィアジェンで地下鉄に乗って、まずホテルに向かいチェックインを済ませた後、陽も暮れかかっていたので、その日は、セニョーラ・ド・モンテ展望台に行ってみる事にしました。途中少し道に迷い、何度も狭い路地に迷い込んでしまいましたが、全く危険な様相もなく、実に魅力的で落ち着いた街並みでした。

坂道を登って、ちょっと疲れてきたところにセニョーラ・ド・モンテ展望台がありました。そこからはテージョ川を遠くに望み、サン・ジョルジェ城、壮大な赤い屋根の家の連なりが広がり、これぞ夢にまで見たあの光景かと感動いたしました。



セニョーラ・ド・モンテ展望台からの眺め



展望台に行くまでの狭い路地

シントラ・ロカ岬への日帰り旅行

翌日、シントラ、ロカ岬への日帰り旅行を実施しました。

ロシオ駅にて<Bilhete Train & Bus>という鉄道とバスを組合せたチケットを購入し、鉄道でシントラまで移動しました。

シントラは大勢の観光客で賑わい、まるでシーズン中の軽井沢を思わせるような光景でした。シントラから周遊バスに乗って、ペーナ宮殿に向かいました。

ペーナ宮殿は1885年に完成した比較的新しい宮殿で、様々な様式が混在した、ちょっとケバケバしい感のある宮殿ですが、丘の上から眺める景色は最高でした。ただちょっと、各ヨーロッパ方面から訪れる観光客でいっぱい、並ぶ時間が非常に長かった事が難点でした。再び周遊バスに乗って王宮に移動しました。

ここはシントラの町中にあり、イスラム教徒の支配していた住居を12世紀にアフォンソ王によって征服され、14世紀に増改築されたもので、歴史も古く当時の生活様式が同え、非常に見ごたえがありました。



ペーナ宮殿



ペーナ宮殿から観るムーアの城跡

そこから再びシントラの駅まで徒歩で戻り、バスに乗ってロカ岬に向かいました。

ロカ岬はユーラシア大陸の西の果てで、目の前に広がる初めて見る大西洋が非常に印象的でした。



ロカ岬から臨む大西洋



ロカ岬の灯台

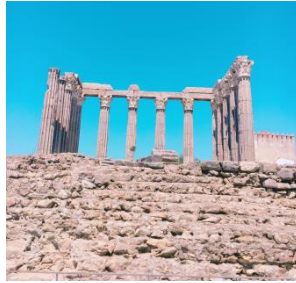
エヴォラ、モンサラーシュへの旅

リスボンにて2泊した後、セッテ・リオスという駅から列車に乗って、エヴォラに移動しました。テージョ川を渡り、コルク並木、牧場を見ながら約1時間20分でエヴォラ駅に到着です。エヴォラはローマ時代から栄えた歴史のある街ですが、リスボンほど観光客で溢れかえるという事もなく、非常にのどかで落ち着いた街でした。その日はローマ時代に造られたディアナ神殿、水道橋を見た後、16世紀初期に建てられたサン・フランシスコ教会を訪れました。

サン・フランシスコ教会には、5000体もの人骨で埋め尽くされている人骨堂があり、さすがにインパクトのある光景でした。



エヴォラの街並み



ディアナ神殿



水道橋

夕暮れ時となり少し涼しくなってきた頃に、ポルトガルで最も美しい村のひとつと言われるモンサラーシュという村にタクシーで向かいました。夕陽が綺麗で、「沈黙の音」が聞こえるという、いったいどんな所なのか出発前から非常に興味があったところなのですが、ネットでどう調べても、この時期バスで行く手段が見当たらず、ホテルの人に聞いたら、やはり今の時期はバスで行く手段はなく、タクシーで行くしかないとの事でした。

そこでホテルの人にタクシーを予約してもらったのですが、ドライバーの Victor Carineiro さんという人は非常に英語も堪能で、運転中のみならずモンサラーシュの村に着いても同行して、懇切丁寧に説明をして下さいました。

モンサラーシュは、ムーア人からアフォンソ王が12世紀に奪還した要塞のような小さな村ですが、ビクターさん曰く、今は60人しか住民が住んでおらず、嘗てモンサラーシュに住んでいた住民の殆どは、少し麓に位置するレゲンゴス・モンサラーシュという村に移り住んでいるそうです。村全体は噂に違わず非常にひっそりと、落ち着いた雰囲気です。1時間もあれば十分見て回れるところですが、白い壁で統一された綺麗な路地、遠くはスペインも見渡せる丘から望む絶景には感動いたしました。

ちょうど陽が沈む最高の瞬間で、この頃に「沈黙の音」が聞こえると本に書いてあったので耳をすましてみましたが、何も聞こえませんでした。片道45分、滞在1時間の3時間弱の短いドライブでしたが、忘れる事のできない貴重な体験でした。



モンサラーシュの夕暮れ



親切なドライバー、ピクターさん



落ち着いた綺麗な路地

翌日、エヴォラ大学とカテドラルに行きました。

エヴォラ大学は中世に建造されたイエズ会の神学校で、アズレージョが飾られた綺麗な教室が見学でき、現代とは少し違った中世の授業風景が想像できておもしろかったです。奥の方に入ってみると日本の大学と同じ様な、大学祭を思わせる現代風の看板が立てかけてあり、日本でもよくある学食みたいなものもあったので、調べてみるとエヴォラ大学は1759年にイエズ会がポルトガルから追放となった時以来、閉校となっていました。1979年に再び開校して、今も学生が通っているそうです。今はおそらく夏休みなので学生らしき姿を見受けられませんでした。普段は学生が大勢この中世のキャンパスを歩き回っているのでしょう。

エヴォラ大学を見学した後、ちょっと歩いたところにあるカテドラルに行きました。

大聖堂の中には、嘗てエヴォラにも訪れた天正遣欧少年使節の4人にも披露されたといわれるパイプオルガンがあり、はるばる日本から来た少年達が壮大なパイプオルガンを初めて聴いた時の光景はいったいどのようなものだったのか、自分なりに想像したりして非常に楽しかったです。大聖堂を見学した後、屋上に上りました。そこから広大に広がるエヴォラ全周の景色が見渡せて、大変気持ちよかったです。



エヴォラ大学の中庭



大聖堂屋上から見渡せるエヴォラ全周の景色

ベレン地区観光とファドレストランでのディナー

エヴォラからリスボンに再び戻ってきた翌日、ベレン地区を観光した後、夜はポルトガルを代表する音楽であるファドを聴きにファドレストランに行きました。

ベレン地区には、ジェロニモス修道院とベレンの塔があり、フィゲイラ広場から市電に乗ってベレンの駅まで行こうと思ったのですが、停留所から溢れるように前後関係なく全く無秩序に集まった乗客が狭い乗車口に競うように乗り込む情景を見て、急遽カイスド・ド・ソドレという駅から鉄道で行く方法に切り替えました。シントラ、ロカ岬で利用したバスもそうでしたが、日本のようにきっちり列をなして並ぶという習慣はなく、同じように競いながら乗車口に入り込む事に慣れなければならない事がわかりました。ひょっとしてきっちり列をなして順番に秩序正しく乗車する習慣があるのは、日本だけなのではないのか?とったりもしました。

本来ならばリスボアカードというカードを購入すれば、地下鉄、バス、市電等が1日乗り放題で、ジェロニモス修道院などの多くの観光スポットも割引となり大変お得なのですが、シーズン中は有名な観光スポットは長い列をなして何時間も並ばなければならないという情報を得ていたのでリスボアカードは買わず、ジェロニモス修道院とベレンの塔については、日本にいる時に予約チケットを購入しておきました。今回はバッチリその予想があたり、どちらの施設も恐ろしいほどの長蛇の列となっており、その横をスーッと通り抜けて入って行く事ができ、効率よく見て回る事ができました。

ベレン地区観光の後、やはりリスボンに来た以上は市電にも乗ってみるべきとの家族の強い要求もあり、市電に乗ってリベイラ市場に行ってみました。競うように乗る市電も慣れれば面白い事に気付きました。リベイラ市場には桁違いに大きなフードコートがあり、今度機会があれば是非立ち寄って、ゆっくり色々食べてみたいものです。

陽が暮れて一度ホテルに戻り、タクシーを呼んで予約しているファドレストランに向かいました。どこのファドレストランも通常いっぱい、予約なしでは入れないそうで前日、ホテルの人にお勧めのファドレストランを予約してもらいました。同じポルトガル語でもブラジルのボサノバ等は普段からよく聴いているのですが、ポルトガル特有のファドというのはこれまで聞いた事がなく、本によっては「ポルトガルの歌謡曲」などと書いてあるものもあってちょっと不安なところもあったのですが、1曲目でそんな不安もいっきに吹き飛ばしてしまう、すばらしい音楽でした。聴衆も大変盛り上がり、ポルトガル最後の夜にふさわしい最高のライブを体験する事ができました。



ジェロニモス修道院前の長蛇の列



ベレンの塔から観るテージョ川周辺



リベイラ市場

終わりに

以上5泊7日の終わってみれば、あっという間の楽しかったポルトガル旅行でした。出発前は不安で、「こんな大それた事、やめとけばよかった。」なんて思ったりもしましたが無事、特に大きなトラブルもなく、やりたかった事全てを実行でき、一生忘れられない思い出となりました。家内は「今度はスペインも回って、もう一回ポルトガルへ行こう」なんて、好き勝手言っていますが、「もうあんたと海外旅行行くの、こりごりや」と言われるのを恐れていた事を思うと、次の楽しみまで浮上してきた事は本当によかったです。できればまた家族全員で行きたいものです。

最後に今回の旅行に際して、懇切丁寧にアドバイス下さった行澤さんに深く感謝いたします。是非次回からもよろしく願いいたします。

小山 勝三郎（記）